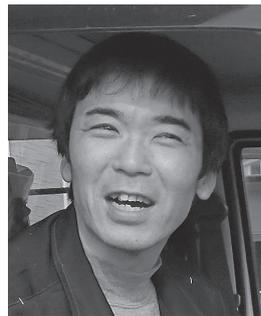


お客様にとっては、一生の一棟」という思いを胸に

(株)春日リフォーム板金



代表取締役 春日英昭氏
柏崎市大字下田尻 2355-7
Tel.080-9374-6709

したのでは、お互いに気を使いどうしても甘い部分が出てしまいかねない。そのため就職先は自分で探し、(株)伊平板金工業所でお世話になることになった。二十歳で入社し、修行期間は五年間の予定だったが、中越沖地震の影響などで先に延び、約十五年という長期間になった。

修行時代の途中で叔父が会社をたたんでしまったが、修行開始当初からいつかは自分で仕事をするつもりでいたため、独立する道を選んだ。辞める時には、反対されることを覚悟して社長さんに相談にいったところ、独立を喜び、応援してくれたという。

現在の仕事についてお聞きしている中でとても印象的な言葉があった。「この現場は、自分にとっては一年間に行う仕事のうちの一部分だが、お客様にとっては、一生の一棟」という思いを常にもっている」という。一般的に、家は一生に一度の大きな買い物だ。よくよく考えてみればあたりまえだが、作り手側にこんな思いで仕事をしてもらえたら、とても嬉しいし、ありがたい。

また、失敗から気づきを得たというお話もあった。あるお客様の工

が終わった後に「実は、こうして欲しかった」と苦言を呈されたことがあったのだ。業界では、あたりまえのやり方でやったが、それはお客様にはあたりまえではなかった。お客様の立場で考えることの大切さを痛感したという。

最後に、今後の取り組みをお聞きしたところ「呼んでいただいているからには、なるべく最初から最後までお客様の顔を見ながら仕事をしたい。お客様に今後より一層、直接お会いしたい」と熱く語ってくれた。

私は、今回の取材で普段忘れてしまいがちな大切なことを教えてもらった。特に仕事が忙しい時は、やるべきことをただこなすだけになりがちだ。そんな時には、「今の仕事はお客様にとっては、一回きりのことなのだ」と自分に言い聞かせたい。

(編集委員 忠・瑞) 取材

春日さんは高柳出身で現在三十八歳。ご家族はお父様と奥さんと二人のお子さんがいる。学生時代は調理師をしていた亡き母親の影響で食品に関心があった為、農業高校へ進学した。卒業後は、市内のスーパーへ就職したが、思うところがあり離職。その後、大工だった叔父の影響で建設関係の仕事に興味を持った。

ただ、いきなり叔父の会社には入らなかった。身内の会社で仕事を

